

中国語の接触場面における非言語資源を用いた他者開始修復に関する会話分析研究

吳青青(長崎外国語大学), 陳力(神田外語大学)

1. はじめに

修復とは、会話において発話の産出、聞き取り、理解に関する問題を解決し、相互理解を達成するためのプラクティスである (Schegloff et al., 1977). 近年、修復に関する研究においては、言語的資源だけではなく、非言語的資源の特徴や働きにも注目が集まっている (Saalasti et al., 2024 参照). 本研究は、接触場面における非言語資源を用いた他者開始修復に関する会話分析研究への貢献を目指し、中国語の接触場面のデータを用いて検討する。

2. 先行研究

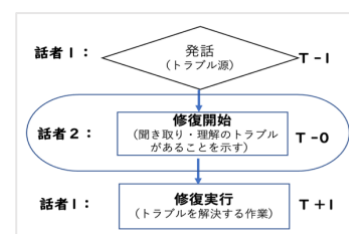
他者開始修復においては、他者が修復開始のみを行い、修復の実行は通常トラブル源の話手が次の順番で行う (右図参照). 非言語資源のみを用いた修復開始の方法として、「freeze-look」「首を傾げる」「頭を前に突き出す」「眉毛を寄せる」などの動きが挙げられている (Seo & Koshik, 2010; Manrique & Enfield, 2015; Oloff, 2018; Srolle & Pfeiffer, 2024 等). 本研究では、特に「freeze-look」に焦点を当てる。

「freeze-look」とは、受け手が先行発話への応答をする代わりに動きを止めて話し手をじっと見つめる動作であり、アルゼンチンの手話やいくつかの音声言語の会話における他者開始修復の方法として使用されることが確認されている (Manrique & Enfield, 2015; Levinson, 2015; Oloff, 2018; Srolle & Pfeiffer, 2024 等). Manrique & Enfield (2015) と Levinson (2015) は、「freeze-look」をトラブルの種類を特定しないオープンかつ暗黙的な (implicit) 修復開始の方法であるとし、必ずしも相手に自己修復を促す (prompt) ものではないと主張している. 一方, Oloff (2018) は、多言語の制度場面のインタラクションにおいて、「freeze-look」をする話者が先行発話に対して言語的問題を抱えていることは、トラブル源の話手が志向していると主張している. Srolle & Pfeiffer (2024) は、ドイツ語母語話者同士の会話を対象に、「freeze-look」は暗黙的かつトラブルの種類を特定する限局的な修復開始の方法であり、リファレンスまたは理解の問題を示すと主張している。

以上の先行研究を踏まえ、本研究では、日本語を母語とする中国語学習者による「freeze-look」の相互行為機能を探ることを目的とする. 具体的には、発話の順番が代わってもよい場所である「移行適切場 (transition relevance place; TRP)」(Sacks, et al., 1974) の前後で生じる「freeze-look」に着目し、以下のことを明らかにする. (1) 「freeze-look」は先行発話に何らかのトラブルがあったことを示すが、トラブルの位置と種類を特定できない. それにもかかわらず、接触場面において母語話者は、学習者が直面したトラブルを特定の言葉に対する理解の問題として扱う傾向がある. (2) 学習者は「freeze-look」を用いて、必ずしも母語話者に修復の実行を促すとは限らない. むしろ明示的な修復開始の方法を使用するまでの間、「freeze-look」を「自己探索」のための空間として利用する。

3. データと分析方法

本研究で使用したデータは、日本の大学で中国語を学習している日本語母語話者 (以下、学習者または JS) と、その大学に留学中の中国語母語話者 (以下、母語話者または CS) との対面会話を録画したものである. 本データは、23 組のペアによる初対面および非初対面の会話 (約 18 時間) で構成されている. 学習者の中国語レベルは CEFR の B1 から C1 の範囲に分布しているが、大半は B1 から B2 レベルである. 会話データの収録に際して、収録者は協力者に「なるべく中国語で話そうに」と指示した. 本研究は、会話分析 (Conversation Analysis) の手法を用い、トランスクリプト作成は Jefferson (2004) および Mondada (2018) の書き起こし記号に従う。



4. 分析

本節では、学習者の「freeze-look」の後で母語話者が修復実行を行った事例（4.1 節）、学習者の「freeze-look」により明示的な (explicit) 方法（「首を傾げる」や言語的な開始方法など）を加えることで母語話者の修復を促した事例（4.2 節）、学習者が「freeze-look」の後で自己探索を言語化した事例（4.3 節）を分析する。

4.1 「freeze-look」の後で母語話者による修復実行の事例

事例1では、中国への留学を予定している JS が留学先の寮について話した後、CS は自分の大学が留学生寮のプロジェクトを立ち上げていることに言及し、新たな話題を開始している（01, 03 行目）。CS の発話は、2つのパートで構成されている。最初の「就是大外」（大連外国语学院の略）は、やや上昇調で JS が「大外」という言葉に対する理解を確認するデザインとなっている。その後 0.8 秒の沈黙が生じ（02 行目）、CS は JS に視線を向け、JS は笑顔を固め、CS をじっと見つめている（fig2, fig3）。これを受け、CS は「大連外国つまり私たち、私の学校は1つのプロジェクトを立ち上げた」（03 行目）と発話して修復実行を行っている。CS の「大連外国つまり私たち、私」という発話の直後に学習者は「うんうんうん」と発話して理解を示している（04 行目）。このように、言葉の理解を確認する発話に続いて「freeze-look」が生じた場合、母語話者による修復の実行（その言葉に関する説明）が次の順番で行われるのが一般的である。

事例1 大外

01 CS: +.h 就是#1 大外
DM ((大連外国语学院の略))
CS *gaze at JS-->>
JS +gaze at CS-->>
大外?
02 #2 (0.8) #3

fig1 fig2 fig3

03 CS: 大連外国 就 我们 我 [的 学校 就是(.) 推出 了一个 项目.
大連外国 つまり 1PL 1SG の 学校 DM 立ち上げる PFV 1つ プロジェクト
大連外国、つまり私たち、私の学校は1つのプロジェクトを立ち上げた。
04 JS: >嗯嗯<
うんうんうん。

事例2 冰雕

01 CS: +你 知道 那个 (.) 哈尔滨 吗.
2SG 知る あの ((都市の名前)) PRT
哈尔滨知ってる?
CS *gaze at JS-->>
JS +gaze down-->>
02 (0.4)
03 JS: 哈尔滨, 嗯嗯
(都市の名前) うんうん
哈尔滨, うんうん。
04 CS: [嗯 它 那里 有 (.) 那种 <冰 雕>
うん 3SG あそこ ある あの CL 氷の彫刻
うん、あそこに氷彫というものがある。
JS +gaze at CS-->>
05 #4 (1.4) #5

fig4 fig5

06 CS: <就是> 他们 把 冰
DM 3PL BA 氷
07 (0.4)
08 CS: [アイ]ス [雕]成 各种各样的 雕塑 一样=
彫刻する さまざまな 彫塑 同じ
彼らは氷をさまざま彫塑のように彫刻する。
09 JS: [氷] [嗯]
アイス。うん
10 JS: =>嗯[嗯 嗯 嗯]嗯<
うんうんうんうんうん。
11 CS: >嗯嗯<
うんうんうん。

事例2は、初対面の二人の長い沈黙の後、CS が新たな話題を開始している場面である。JS がハルビンという都市について知っていることが確認された(01-03 行目) 後、CS は「あそこに氷彫というものがある」と述べ (04 行目)、TRP を迎えている。しかし、1.4 秒の沈黙が生じ (05 行目)、その間 CS は JS に視線を向け、JS も CS をじっと見つめている。これに応じて、CS は次の順番で「冰雕」について説明し、修復を実行している (06-08 行目)。CS の説明を聞きながら、JS がジェスチャーで理解を示し (トランスクリプトには記載なし)、さらに「うんうんうんうんうん」と発話している。事例2の修復実行から、CS は JS が直面した問題が理解の問題であったと扱っていることが分かる。

4.2 「freeze-look」に明示的な方法を加えることで母語話者の修復実行を促した事例

事例3では、「freeze-look」に「首を傾げる」動きを加えることで母語話者の修復を促した例が示されている。この事例の前では、CS が焼鳥屋のアルバイトで採用されたというニュースを語り、JS がその店がファミリーマートの近くであるかを確認している。なぜそれを知っているかという CS の疑問に対し、JS が自分の友達があそこでアルバイトをしているからと応答している。その後、CS がその友達について具体的な情報を求めると、JS は実

は名前を知らないと返している。続くやりとりで、二人はその人の性別や背の高さなどを確認し合い、JS は最初に述べた「私の友達があそこでアルバイトをしているから」という発話を訂正し、その人が友達ではなく顔見知りや自分の友達の先輩であると説明している。両者が話題の人物が同一人物である可能性に同意した後、JS は前日の夕方に学校のシャトルバスで見かけたエピソードを語り、それが CS と一緒にいた男性であるかを確認している。事例2のやりとりは、CS が「そうそうそう」と承認した直後に生じたものである。01 行目で CS が「あ、あの (人) はあなたの友達?」という確認の質問をした後、0.8 秒の沈黙が生じている (02 行目)。この沈黙の間、JS はまず 0.5 秒間の「freeze-look」の動きをし、その後、頭を左に傾けている。これに応じて、視線を JS に向けている CS は 03 行目で人の名前を挙げて修復を試みている。その後 1.7 秒の沈黙を経て、JS は「>不是<不是朋友: (いや、友達じゃない)」と否定し (05 行目)、会話が continuing。

事例3_朋友

01 CS: 啊.hh(0.3) 那个 是 你的 朋友,
あ あ の COP 2SG の 友達

CS *gaze at JS-->>>
JS *gaze at CS-->>>
あ、あの (人) はあなたの友達?

02 #6 (0.5) #7 (0.3) #8



03 CS: <王 #9 杰住>
(人(の名前))
(1.7)

04 JS: >不是<不是朋友:
いや、友達じゃない。

05 CS: [啊。
ああ。

06 JS: (刚好是看过(h))
(ちょうど見たことがある)

事例4は、「freeze-look」の後に「ん？」と発することで修復を開始したものである。この事例の前では、お互い染めた髪について話し合っている。その話題が一段落した後、CSが「今天去健身房(今日ジムに行く)」(01行目)と発話した後、1.1秒の沈黙が生じている(02行目)。この1.1秒の間、JSはじっとCSを見つめており、CSの視線もJSに向けている。しかし、事例4ではJSは「freeze-look」の後に「ん？」(03行目)と発話し、明示的に先行発話に何らかのトラブルがあったことを示している。

JSの「ん？」を受け、CSは0.3秒の沈黙の後、速いスピードで「健身房」を繰り返すことで修復を実行している(05行目)。その後、0.4秒の間を置いて、JSは「健身房(ジム)」という単語を小声で「jiànshēnfāng」と発音している(07行目)。この07行目の発話により、JSが二つの行為を達成しようとしていることが考えられる。一つは「健身房(ジム)」という言葉に対して理解の問題があることを明示し、修復を開始することである。もう一つは、言葉を発音することで(その音を対応する漢字と連結させて)その意味を吟味し、自ら言葉の意味を理解しようとしていることである。さらに、0.7秒の沈黙(08行目)の後、CSは日本語で「ジム」と発話して修復を実行している(09行目)。この修復実行が発せられると同時に、JSは小声で「a」と呼気音を発し、その後「噢:(ああ)」を発することで、「健身房」という言葉の理解に到達したことを示している。

この事例は一見すると、CSはJSが直面した問題を聞き取りの問題であったと扱っているように見える。しかし、CSはトラブル源を含むターン全体を繰り返すのではなく、学習者にとって難しい単語と想定された「健身房」だけを繰り返すと同時に驚いた表情を示し、目と口を見開く様子(fig10)が見られた。このことから、CSはJSによる修復開始を問題視とすることがわかる。先行研究で指摘されている通り、無限定の質問(「ん？」など)による修復開始に対して、トラブルの話者は通常、最初に最も深刻でない修復実行の方法(先行発話の繰り返し)を選び、相手の直面した問題を聞き取りの問題として扱う傾向がある(Svennevig, 2008)。しかし、事例4では、CSはJSが直面した問題を単なる聞き取りの問題だけでなく、理解の問題としても扱っている。また、トラブル源となった単語について、CSはJSが理解できるはずだったというスタンスを示している。この点については、CSによる修復実行の後のやり取りから裏付けられる。具体的には、母語話者がすぐに「健身房」の日本語訳を提示せず、学習者がその単語を繰り返した後母語話者が0.7秒の間を開けて「ジム」を提示し、それと同時に学習者が理解を示したことが確認できる。

4.3 「freeze-look」の後で学習者によって開始された自己探索の言語化

事例5では、JSの「家の最寄り駅」に関する質問への回答(06行目)にある「葛西臨海公園」という駅の名前の中国語読みがJSのトラブル源になっている。CSの発話中、「海」という音が発せられると同時に、JSは「freeze-look」をし始め、「公園:」の伸ばし音と重なるように小声で「gexilin」と発話し、「葛西臨海公園」の発音を試みている。その後、JSは0.4秒の間を置いて、視線をCSから外し、左手を前に出してstopを示すジェスチャーをすると同時に「thinking face」の表情を見せている。さらに、言語的に「ちょっと待って」と発話している(09行目)(fig14)。続けて、1.1秒の間の後、「落

CSの修復実行から、CSはJSが直面した問題が人の指示に関する問題(一種の理解の問題)であったと扱っていることが分かる。しかし、既にその人が友達ではなく顔見知りであり、友達の先輩であることを述べたJSは、その人を「友達」の Kategorii に入れたくない可能性もあるため、この「freeze-look」は non-answer response (Heritage, 1984) という非優先的反応に相当するものとしても考えられる。

学習者が具体的にどのようなトラブルに直面しているかを断定することは難しいが、少なくとも母語話者はそれを人の指示の問題として扱っており、修復実行を行ったことが明らかである。さらに、この修復実行の開始時点は「freeze-look」に「首を傾げる」動きを加えられた後であり、つまりこの「首を傾げる」動きは、相手に修復実行を促す働きを持つと考えられる。

事例4_健身房

01 CS: 今天 去 健身房。
jīntiān qù jiànshēnfāng.
今日 行く ジム

CS *gaze at JS-->>>
JS *gaze at CS-->>>
今日ジムに行く。

02 #10 (1.1) #11

03 JS: >mm<
ん?
(0.3)

04 CS: >健 身 房<#12
>jiànshēnfāng<
ジム

05 (0.4)

06 JS: 'jiànshēnfāng'

07 (0.7)

08 CS: [ジム]

09 JS: ['a'h] 噢。
ò:
あつ、ああ。



ち着かせて/ゆっくり考えさせて」と発話している (11 行目) (fig15). その後, 1.4 秒考えた末に, JS は笑いながら CS に明示的に発話の繰り返しのリクエストしている (13 行目). これを受け, CS は発話のスピードを落としながら, 「葛西臨海公園」を繰り返している (14, 16 行目). それに応じて JS は CS の発音を繰り返している (15, 17 行目). 発音をすることによって, その音を対応する漢字と連結させて意味を認識している (18 行目). 同時に, JS は前に出した左手を戻している.

事例 5 は, 「freeze-look」の後, JS がトラブル源の発音を試みることで, 明示的にトラブル源を CS に示している. 発音を試みるこの行為から, 聞き取り上の問題はないことがわかる. しかし, それだけでは JS が直面している問題が言葉に対する理解の問題であると断言することはできないだろう. 14 行目から 18 行目のやりとりから, JS が発音された音がどの漢字と対応しているかという問題に直面していることが明らかである.

5. まとめ

本研究で分析した 5 つの事例から, 順番の「移行適切場」の前後で生じている学習者の「freeze-look」は, 学習者が何らかのトラブルに直面していることを表すことが明らかになった. 中国語接触場面の会話では, 母語話者は, 学習者が言葉の理解の問題に直面していることに志向して対処する傾向が見られるが, 事例の分析からは学習者が必ずしも理解の問題に直面しているとは限らないことが示唆される. 特に, 日本語を母語とする中国語学習者には, 中国語の音を漢字化してから意味を理解するという「語音文字化」(言語音の文字化)(朱, 1995: 149)と呼ばれる現象が見られる. この現象により, 学習者は中国語の音を聞き取れていても, それを漢字に変換できないために, 理解に至らない可能性がある. したがって, この問題を単純に学習者の「理解の問題」と捉えるのは危険である. むしろ, 聞き取りと理解の間に位置するトラブルに直面していると考えべきである. 相互行為の中で学習者は聞き取り, 音から漢字への変換, 言葉の理解, 指示対象の特定に加え, 母語話者の発話によって遂行される行為を認識し, 期待される反応を返すなど, 様々な課題に直面している. 「freeze-look」は, 学習者が適切な反応を返す前までの準備時間となると考えられる. また, 事例の分析から, 学習者は「freeze-look」を経て様々なプラクティスを選択しながら相互行為を進めていることがわかる. これにより, 学習者が「freeze-look」中に「自己探索」を行っていると考えられる. 学習者の明示的な修復開始の方法がなされる前には, 学習者に十分な時間を与える必要がある.

謝辞 本研究は JSPS 科研費 20H05630 および 23K12172 の助成を受けたものである. 本校の執筆にあたって, 関西 EMCA 互助会の参加者および「非流暢」科研 (20H05630) の会話分析班のメンバーから有益なコメントを頂いた. ここに感謝する.

主要な参考文献

- Levinson, S.C., (2015). Other-initiated repair in Yelî Dnye: seeing eye-to-eye in the language of Rossel Island. *Open Linguist.* 1, 386-410.
- Manrique, E., & Enfield, N. J. (2015). Suspending the next turn as a form of repair initiation: evidence from Argentine Sign Language. *Frontiers in Psychology.* 6, 1-21.
- Stolle, S.I., & Pfeiffer, M., (2004). Stand-Alone Facial Gestures as Other-Initiations of Repair. *Social Interaction: Video-Based Studies of Human Sociality*, vol. 6, no. 3
- Oloff, F., (2018). 'Sorry?' / 'Como?' / 'Was?' - Open class and embodied repair initiators in international workplace interactions. *Journal of Pragmatics.* 126, 29-51.
- 朱新建 (1995). 中国語と日本語の音声の比較—中国語学習者の発音とヒヤリングの指導のために—語研紀要, 20, 135-152.

事例 5 葛西臨海公園

06 CS: + 叫 (0.2) 那:个 (0.5) 葛 西 臨 海 公 园 #13 海 #14 公 园 #15:
jiào nà:ge: gē xī lín hǎi gōng yuán
呼ぶ あの 葛西臨海公園

07 JS: 葛西臨海公園という。 ["gexilin"]

08 (0.4) → (0.5)
JS: +gaze away +((13行目まで))
JS: 左手を前に出して stop を分す → (18行目まで)

09 JS: 等一下 #16
ちちょっと待つて。
(1.1)

10 JS: 我緩一緩 #17
我緩一緩 #17
落ち着かせて/ゆっくり考えさせて。
(1.4)

12 JS: huhe +再(h)说(h) (h)遍. [hhu
もう一回言つて。
JS: +gaze at CS →

14 CS: [<葛西: >
<gē xī>
葛西

15 JS: gēxī
16 CS: [-<臨海> (.) [公園]:=
-<lin hǎi> gōng yuán
臨海 公園
[línhǎi].

17 JS: =.HH 啊... 啊...
18 JS: =.HH 啊... 啊...
JS: 左手を戻した

19 CS: ああ。
你知道嗎? =
知ってる?
20 JS: =>我知道我知道<
知ってる知っている。





